

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「生き生きとしたぬくもりのある暮らし」を理念として運営方針として地域との密接な連携が定められていて、一体的に説明がなされている。具体的なイメージを持ってうたっている。		運営方針と一体的に理念を使っている。重要事項説明書等にも一体的に明示することが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者が職員にチームケアとして具体的に伝えており、職員は理念を共有して実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民が訪れる交流（年数回の防災訓練や夏の行事及び敬老会など）や、入居者が出かける交流（公民館での生き生きサロン、地域の祭りなど）など地元の人々との交流の機会を多く持っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義について講師による勉強会をして、職員全員が理解と評価についての共通認識を持った。その後夜間などを利用して数回のミーティングで話し合って自己評価をした。職員はこの勉強会と自己評価を通じて、諸改善もしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者は規定どおり運営推進委員会を実施し、有意義なものとなっている。煩雑な資料作成、記録などもしっかりとしている。自己評価及び外部評価の報告もされ、委員から意見をもらってサービスに活かしている。委員会の取り組みから「地域防災組織」も生まれている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者である保健師と、外部評価を通して、電話相談や訪問を受けられるように連携が図られ、今年度から町の地域包括支援センター担当職員との連携がとれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の暮らしぶりや行事等を知らせる「やすらぎ通信」を発行している。健康状態は面会日や電話等でこまめに報告し、出納帳も正確に記帳され、家族へ報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定められた相談・苦情のシステムの他、第三者委員も設置している。家族等からの苦情や不満はないが、必ず意見を聞くようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は、開設以来全員定着しており、人間関係も良好で利用者と馴染んでいる。家族とも信頼関係はできている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、法人内に多くの勉強会「生き生き働くためには」「認知証について」「身体拘束について」などを実施し、職員を割り当てて勉強させている。又、管理者は機会あるごとに、研修に参加する機会を確保している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	始良・伊佐地区グループホーム連絡協議会や県の協議会を通じた職員の交流（事例発表や意見交換）を促進している。又、近隣のホームとは散歩や買い物などの折に職員間の日常的な交流がある。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	必ず家族と一緒に見学やレクリエーション参加などの関係づくりをしている。その後家族は何回も行き来して、安心してサービスを開始するようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の生活歴から、潜在している能力や興味をよく把握している。職員はその能力に興味を持つと同時に、それに敬意を払って引き出すように支援している。いろいろな面で職員が学ぶ機会が多いと認識し、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な本人のしぐさや会話から、願いや意向を把握する職員間の努力が認められる。困難な場合は、家族からの情報を大切にして本人の意向を把握している。ミーティングでも利用者の様子を伝え合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者は、まず家族の細かい希望や意向を把握している。職員からは日常的な情報を聞き、職員会議の意見を反映して計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的かつ個々の状態に応じて見なおしをしている。家族や主治医、職員の意見を聞きながら新しい計画を策定している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望に応じたふるさと訪問、外出支援や通院介助などを柔軟に提供している。又、協力医療機関との連携で24時間連絡体制ができており、往診や医師の指示に基づく支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する在宅からのかかりつけ医利用者は5名おり、2週間に1回定期的に訪問診療できている。通院を含めて適切な医療支援ができている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化の場合、特別養護老人ホームへ希望するとの家族との申し合わせができ、既に手続がされている入居者が数名いる。終末期については、ホーム側の方針のみとなっている。	○	終末期について、ホーム側は医療処置（酸素吸入、ペインクリニックなど）について、家族・主治医と共通の方針を、早い機会に共有することが望まれる。
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人権擁護委員会という勉強会が定期的にあり、プライバシーや尊厳ある言葉使いなど努力目標と達成マニュアルなどで徹底を図っている。個人情報の取扱も取り決めがあり、職員は十分理解して支援している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課は大まかに組まれており、入居者の意向やペースによって支援している。絵描き、家事活動、外出買い物などその人らしい1日を過ごしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事には入居者全員何らかの役割がある。準備、調理、後片付けなど得意分野で職員と一緒にに行っている。食事時間は和やかで職員と話しながら楽しく食べていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	このホームの特徴の一つである温泉は、広い浴槽でいつでも好きな時間に入浴できることにある。マンツーマンで楽しめる入浴を支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	いろいろな潜在能力と、現実的にできる能力をよく発揮させている。潜在能力は三味線であったり、習字であったり楽しみごととなっている。できる能力は得意とする役割に活かされ、気晴らしの散歩などもよく支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	全体的に出かける外出や日常的な散歩、買い物等戸外へ出かける支援や、健康上の問題で外出できない入居者には施設内のデイサービスや特養のレクリエーションに参加させたりしてできるだけホームの中だけで過ごすことがないように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をする弊害を理解して、玄関のドアに鈴をつけ、見守りや気配りで鍵をかけないようにしている。又、併設の事業所との連絡体制がよく取れている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防、地域住民参加の総合避難訓練、地震・風水害対策講習会、その他ホーム独自の夜間対応を含む年2回の避難訓練を実施している。毎月の通報訓練や消防設備点検も実施している。懐中電灯の備えや非常用の水・食料は準備されている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設の特養の管理栄養士によって、栄養スクーリングがされている。一人ひとりの状況に応じてバランスやリスクが把握されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明はやや落し気味、，やわらかく落ち着いている。静かな雰囲気ですりつけも適正である。職員の手による一人ずつの全入居者の似顔絵が貼ってありほほえましい。玄関にも季節の花がさりげなく飾られて、全体的に使い勝手のいいホームである。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅からのタンスの持ちこみはある。居室には本人に合ったベッドが置かれ、家族や自分の写真、自分で書いた絵などが飾られて居心地よく過ごせるようにしている。各人の思い思いの部屋づくりとなっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNET に公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式１）を添付すること。